

留 学 報 告 書

記入日： 年 月 日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	マレーシア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文： マラヤ大学 現地言語： University of Malaya
留学期間	2019年8月～2020年2月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年2月19日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月～1月 2学期:2月～7月 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	22000人
創立年	1905年

留学費用項目	現地通貨 (リンギット RM=26円)	円	備考
授業料		0円	大学間協定留学のため
宿舍費	2846	円	
食費		43981円	
図書費		0円	
学用品費		2000円	
携帯・インターネット費		145320円	
現地交通費		50000円	大学までは無料スクールバス利用(<input type="checkbox"/> 大学まで 徒歩・自転車)
教養娯楽費		150000円	滞在中旅費
被服費		32635円	
医療費		0円	すべて保険適用
保険費	230	47990円	形態:明治で必須+マラヤで必須
渡航旅費		109490円	
ビザ申請費		26000円	
雑費		30000円	
その他	630	円	Administration fee(現地でマラヤに支払い)
その他		円	
合計	3706RM	637416円	計 733772円

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田空港 目的地:クアラルンプール 経由地:ジャカルタ 復路 出発地:クアラルンプール 目的地:羽田空港 経由地:	
渡航費用	
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:マレーシア航空 料金:62910 円(成田~クアラルンプール~ジャカルタ~クアラルンプール) 復路 航空会社:ANA 料金:46580 円 ∴合計:109490 円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:skyticket) <input type="checkbox"/> その他(_____)	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:International House) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 3 人 (最大 4 人))	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
ネットで過去の日本人留學生のブログを探し、寮についての比較コメントから自分に合う寮を探した。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
<p>キャンパス内の寮には大部分の留學生が滞在しますが、学外のマンションや学外寮も選ぶことができます。キャンパス内寮は特に予約をする必要はありませんが、学外に住居を探す場合は自分自身で探すことになります。International House は学外の留學生専用寮なので、マラヤ大学の HP でメールアドレスを探し、6 月くらいに「9 月から留学予定のため予約リストに入れてほしい」と連絡しました。学外のコンドミニアムに住んでいた人は、内覧や契約を現地に住んでいた身内に頼んでいたようです。一年間留学の学生は、学期間にコンドミニアムに引越したり、前期中でも頑張って引越した学生がかなりいました(半期分の手数料は返ってこない)。学外になるとキャンパスの無料バスが通っていなかったり、市内循環バス(時刻表はなく 30 分待つこともざら)も通っていません。(ただ電車もバスもものすごく安い。一回乗車で 15 円~50 円)その場合は Grab を使っていました。KL の Grab はかなり安いので(初乗り 250 円くらい)都内で電車に乗っていると考えれば選択肢としてはありだと思えます。交通系カード(Suica のようなもの)を学生登録すればバス電車の運賃は半額になるようです。</p> <p>学外に住む一番大きな利点としては、ローカルの人達が住む街中で生活できることです。キャンパス内の寮は留學生やバディがたくさん住んでいて、情報交換ができたり夜に一緒にスポーツをすることができたりというのは留学初期には大きな利点ですが、寮はキャンパスの一番奥(正門から車で 5 分)にあるので、学外と比べてキャンパス外に出る頻度は下がってしまうと思います。加えて、基本 6 畳一間 2 人部屋、エアコンなし、温水シャワーはほとんどない、冷蔵庫は 40 人ほどで共同(高頻度で盗まれる)、キッチンも共同(たまに閉鎖される)、Grab は捕まりにくいという様子なので、健康面を心配する方にはあまりお勧めしません。</p> <p>International house(IH)はキャンパスのメインバスターミナルから無料スクールバスで 5 分ほどの距離にあります。裏手の大通りの前では火曜日にナイトマーケットが開催され、その大通りを挟んで向かいには中規模のショッピングモールがあります。市街地への駅までは混んでいない時に車で 5 分ほどです。部屋は 2 部屋の寝室が 2 つとリビング、ダイニングキッチン、ユニットバス(温水)、冷蔵庫、洗濯機、各部屋にエアコンがあります。(詳細はマラヤ大学 HP)調理道具とマットレス以外の寝具は現地で購入しました。事務室が入り口にあり、日本から荷物を送っても受け取ってもらえるので、基本的な初期投資の生活用品は日本から送ってしまったほうが、到着後すぐに寝具を買いに走り回らずに済むかと思えます。周辺に何を売っているお店があるのかという情報は、ルームメイトや事務室に聞きました。</p> <p>実際に学外に住んでみて留学初期の 1 週間は他の留學生との日常生活での交流が少なく情報を手に入れるのが大変だったこともあったり、学内寮に住んだ人には「経験としては良かった」と聞いてもいます。単純な滞在費ではほぼ同じくらいなので、最終的には何を優先するかで学内学外を決めることになると思います。</p>	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院, 学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所: 日系の病院(おすすめ)、現地の緊急外来、マラヤ大学病院、マラヤ大学キャンパス内診療所)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等: 同じタイミングで渡航していた日本人留学生、留学生支援団体(GJSSC)のような学生団体の学生)、海外旅行保険会社健康相談窓口)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の危険地域情報は基本的に外務省の危険情報メールで収集していましたが、それ以外の身近なトラブル情報はマラヤ大学日本人留学生 LINE グループで適宜交換していました。実際に行っていた防犯対策としては、バックはチャック付きや肩掛けを使用する、クレジットカードの利用場所は選ぶ、カード利用情報は毎日確認する、タクシーは Grab 以外使わない、中心街の裏通りは通らない、怪しい空気を感じたらその場で引き返す等です。

大きいショッピングモールではめったにありませんが、市街地のカフェなどではカードのスキミングが多発しています。私も会計時に気が緩んでカードを裏に持っていかれてしまい、不正利用被害に遭いました。特に自分の身が物理的に危険と感じたことはありませんでしたが、留学生全体のグループワッツアップでは何度か危険情報が共有されました。具体的には、私が暮らしていた寮の最寄りのバス停で、夜にバイクライダーのひったくり被害にあいそうになった現地学生がいたこと、そして公道で警察らしき集団に「検問」の名のもと乗車したままトランクを開けさせられ、その場をしのいで離れた場所でトランクを再度確認したところ見知らぬ何らかの白い粉末が入った袋が入っており、怖くなってその場で捨てて走り去ったところ、別の警察らしき集団に再度検問にかけられ、トランクを見られたとのことでした。

夜間帰宅のために必要最低限で寮周辺を歩くことがありましたが、実際に怪しげな人が出歩いているのを目撃したりということはありませんでした。しかし、よく利用していた近くのカフェのオーナーさんには「夜は外は歩かないほうがいい。日本ほど治安がいいとは思わないように」と言われました。大学周辺では分かりやすく治安が悪そうな場所はほとんどありませんでしたが、バスで 30 分程度離れた場所には時たまスラムのようなエリアがあります。クアラルンプール中心街はかなりきらびやかで東京のような感覚を抱き、慣れていくうちに気が緩んでしまっていますが、その分人も多くひったくりやスリに遭い易いということを都度友人と出かけたときに「気を付けよう」と戒め合っていました。

キャンパス内のほとんどのパソコンはウイルスに感染していたので、印刷、図書館 PC、教室でも USB は使用しないでください。データが吹き飛ぶとのことです。授業のプレゼン用ファイルはグーグルアカウントを利用して開いてください。

以下はビザ申請が原因とみられる被害情報です。私の留学学期は 49 名の日本人がマラヤ大学に留学していたのですが、そのうちの 10 名ほどがビザ申請代金を支払ったカードを不正利用されています。支払先は「Education Malaysia Global Service (EMGS)」です。不正利用の時期は渡航前渡航中まちなちですが、不正利用された時期、カード利用状況を照らし合わせてみても、原因がビザ申請代金の支払いとしか考えられない状況です。留学前年度では日本人留学生の約 8 割が不正利用被害に遭ったとの情報もあります。日本大使館にも連絡済みですが、対応してもらっていません。日本の銀行にはカード停止時に情報提供をしてあります。しかしカード停止が間に合って(しまったため)被害届を出すことができず、事件化と警察の捜査はされないままです。EMGS へのカード支払いがビザ取得のため必須で、予防もできないと思います。唯一、できる対策としては、カードはネット銀行のものを臨時で作り、EMGS へ支払い完了後すぐに解約することくらいかと思っています。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

大学構内では学内 wifi が使えていましたが、大学への不正アクセス攻撃があり、一時期使用不可となっていました。ほとんどの学生は現地 SIM を購入していましたが、私は SIM ロックが機種の問題で解除できず、日本のポケット Wi-Fi (約 3 万円) と docomo のポケットパック海外オプションを利用していました。現地 SIM を使う場合は、近隣国に旅行した時にもその国で SIM を買うことになります。ドコモの接続は安定していました。現地 SIM はかなり安いです。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか?

日本からデビットカードを持っていき、カードでの支払いも ATM での現地通貨引き落としも行っていました。クレジットカードは支払いには利用できますが、現地通貨を引き出したい場合にはキャッシングになってしまい手数料が高くなってしまいます。デビットカードであれば、110 円/回(引き出し)の手数料でした。留学時は円高だったので、デビットカードの手数料を含めて現金と同じくらい少し安いくらいでした。Grab (Grab Pay) はポイントの還元率が非常に高いのですが、カード登録が必要で、日本のカードは登録時かなりの確率ではじかれていました。理由は全くわかりません。一年間の留学の学生で現地に口座を作っている人もいましたが、ネットバンキングが利用しやすくなる程度なので、わざわざ開設する必要はないと思います。ただ、カードの不正利用被害は日常茶飯事なので、メインカード以外にも予備カードは必須です。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

現地で調達できないものはほとんどありませんが、いいて言うならば虫よけスプレーは日本のものが安心だと思います。現地のももありますが、見た目が強力殺虫剤かのようなものばかりです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
15 単位	<input checked="" type="checkbox"/> (予定)12 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？ 医学部や薬学部の履修はできませんが、それ以外の学部であればどんな授業でも履修可能です。基本的に大学の授業はすべて英語で開催されます。しかし授業によっては予告なく実施中止やマレー語開催になるので、情報は常に集めておく必要があります。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economic development in southeast asia	東南アジアにおける経済発展
科目設置学部・研究科	Arts and social science
履修期間	半期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(週 2)、チュートリアル(週 1)(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が3回
担当教授	Dr.Thiru
授業内容	経済理論をベースに東南アジア各国の経済状況を学ぶ。
試験・課題など	中間テスト、期末テスト、期末レポート 3000words、プレゼン
感想を自由記入	教授が親日家で留学生に親身。東南アジアの経済について総合的に学ぶのであれば、経済学部よりはこの授業が最適。留学生も多い。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Ethnicity, identity and political minorities in southeast asia	東南アジアにおける民族性、アイデンティティ、政治的マイノリティ
科目設置学部・研究科	Arts and social science
履修期間	半期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(週2)チュートリアル(週 1)(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が3回
担当教授	Dr.Mala
授業内容	東南アジアにおける民族的・文化的・人種的・宗教的マイノリティを、歴史・政治などの観点で学ぶ。
試験・課題など	期末レポート(1000words)、期末課題、期末テスト、チュートリアルで数週間に一度のプレゼン課題
感想を自由記入	3 年生配当科目(留学生は関係ない)だったことでもかなり難しかったです。先生も専門用語を多用し、発音が独特なのでかなり聞き取りが大変です。しかし内容としてはとても興味深く、やりがいがありました。プレゼンも多いですが、頑張っよかったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Chinese culture and Society in SEA	東南アジアにおける中国文化と社会
科目設置学部・研究科	Arts and social science
履修期間	半期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(週 2)チュートリアル(週 1) (チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Dr.Tien
授業内容	東南アジアの民族構成に大きな割合を占める中国系について、その歴史と文化を理解する。
試験・課題など	期末テスト、期末プレゼン、期末レポート(ペアワーク・ひとり 2000words)
感想を自由記入	東南アジアと一口に言っても民族構成は様々ですが、そんななかでもどの国でも影響の強い中華系の移民の経緯や文化について学ぶことができます。身近でも理解していないことだったので履修できてよかったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Labor Issues in SEA	東南アジアにおける労働問題
科目設置学部・研究科	Arts and social science
履修期間	半期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義週 2、チュートリアル週 1(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が3回
担当教授	Dr.Thiru
授業内容	東南アジアにおける女性参画、児童労働、労働移民、若者の失業率等について、労働理論に基づいて学ぶ。
試験・課題など	中間テスト、期末テスト、期末レポート(3000words)、プレゼン
感想を自由記入	開発途上であれば労働問題は数多くあるだろうと考えて履修しましたが、思っていたより様々なテーマに沿って学べました。経済発展の授業と同じ教授なので、両方の履修をして深く学べました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Elementary Malay	初級マレー語
科目設置学部・研究科	Faculty of Language
履修期間	半期
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が1回
担当教授	Faiz
授業内容	挨拶、自己紹介、3 語分程度の紹介文を読み書きできるようになる
試験・課題など	中間テスト、グループプレゼン、スピーキングテスト、期末テスト
感想を自由記入	マレーシアでは必要に迫られてマレー語を話すことはありませんでしたが、お店などで現地の方にマレー語で話すことも喜んでくれました。帰国前にはタクシーのドライバーと簡単な会話(どこから来たの?何を勉強しているの?等)はできるようになりました。マレー語はインドネシア語と非常に似ているので、インドネシアに旅行に行ったときとても役に立ちました。 履修登録は現地の事務室で行います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Politics and Government in SEA	東南アジアにおける政治と政府
科目設置学部・研究科	Arts and social science
履修期間	半期
単位数	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義週 2、チュートリアル週 1(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が3回
担当教授	Chong Wu Ling
授業内容	東南アジア諸国の政治史を網羅。
試験・課題など	レポート数回、中間テスト、チュートリアル課題、期末テスト
感想を自由記入	覚える系の科目なので苦戦しました。日本で手に入る教科書には載っていない話を聞いたので面白かったです。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など
3) 就職を選択した方は, 差し支えなければ内定先を教えてください。また, その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前, あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は, 差し支えなければ現時点で希望する業界, 職種等を教えてください。
4) 就職活動中・終了に関わらず, 就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
5) 進学を選択した方は, 差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は, その進路を選択した理由と, 留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	入学、東南アジアボランティア(ジャカルタ)参加申し込み
8月～9月	東南アジアボランティアプログラム参加、長期留学を考え始める
10月～12月	11月:学内応募書類提出、12月初旬:学内面接選考、合格発表
2019年 1月～3月	1月末:学内審査合格者オリエンテーション、各種予防接種、3月末:GPA公開(留学校の基準以下だと留学不可)
4月～7月	4月半ば:マラヤ大学に留学オンライン申請、5月:JASSO奨学金申請、6月:マラヤ大学から留学許可、学外寮の申し込み、渡航ビザオンライン申請、7月半ば:パスポート更新、7月末:学外寮入寮許可
8月～9月	8月:マレーシア大使館へ書類提出、渡航ビザ受け取り、8月末:渡航、9月:マラヤで学生ビザ申請、10月:学生ビザ受け取り
10月～12月	1月:期末テスト
2020年 1月～3月	2月:帰国
4月～7月	6月:英検1級受験
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

留学を一度決めてしまえば、準備中も渡航後も授業も生活も、体力的にも精神的にもかなりタフな生活になります。ただ、その代わり頑張った分だけたくさん成長できる大きなチャンスでもあります。ここまで身をささげて頑張れるチャンスは人生にそうないと思います。漠然とした不安が留学をしない理由になっているのであれば、飛び込んでしまうのが良いと思います。留学を考えている仲間にはそれぞれ志をもってそれぞれ頑張っている人たちがたくさんいます。その仲間たちに背中を押してもらって1年間全力で頑張ってみてはいかがでしょうか。

東南アジアを学びたいと考えている学生へ。残念ながら明治大学、特に国際日本学部では、現時点で東南アジアを専門的に学ぶための授業や教授はいません。1年次に東南アジアに興味を持って、2年次に東南アジアに留学して専門的な知識と経験を積んでも、帰国後に学び続け、発展させていくための環境はまだ整っていません。そのため、留学をゴールにするのではなく、帰国後にその経験をどのように新しい学びにつなげていくのかを考えながら準備・留学に向き合っていただけだとします。

一言に「留学」と言っても、その中身は千差万別です。大学で学びたい科目を取りまくる学生もいれば、授業は最低限にして旅行やインターンシップ、ボランティア等で経験を積もうとする人、コミカレで英語能力を上げたい、など。「留学に行きたい」ではなく「留学で～～を学びたい/挑戦したい」を大切にすれば、すべての経験が実りのある期間になると思います。応援しています。

